夢童

自然災害の連続と相互扶助

菅波　茂

何故か。自然災害の連続である。

10月3日にフィリピンの首都マニラの洪水にコーディネーターを、10月14日にタイの首都バンコクの洪水に第1次医療チームを、10月31日には第2次医療チームを、10月22日にはフィリピンのパンパンガ州の洪水に調整員を派遣した。10月23日にはトルコ東部で大地震が発生。25日朝にはワン市に医療チームが到着し、医療活動を開始した。なお、カンボジア支部からは水位がひいてきたので洪水被災者の支援は必要なしとの連絡だった。

タイ国首都バンコクでの洪水ではAMDAはボートを購入して巡回診療を実施。トルコ西部の地震では発生1カ月後に復興支援調査チームを派遣予定である。同時に多発する各国の災害に対応できたことを関係各位に感謝したい。

緊急人道支援に不可欠なのは被災地の事情に詳しい地元の人たちである。彼らの協力なしにはどんなに強力な医療チームを日本から派遣しても、「被災者の役に立ちたい」という募金者の方々の想いに応えることが困難である。

マニラの洪水ではフィリピン空軍と、パンパンガ州の洪水ではイースト大学と、バンコクの洪水ではタイ救急医学会と、トルコ東部地震ではトルコの医療NGOであるキムセヨクムと連携した。大切なことは「在日外国人が財産」という認識である。

フィリピン空軍とは岡山県内在住のフィリピン人の団体である倉敷フィリピーノサークルが、イースト大学とはAMDAフィリピン支部名誉顧問が、タイ救急医学会とは東京で活動しているAMDA国際医療情報センター理事長と個人的な知人であるパイロ医師が、キムセヨクムとは日本トルコ文化交流会が、それぞれ橋渡しをしてくれたお陰である。在日外国人の彼らも日本から救援チームが派遣されることをとても喜んでくれる。

洪水で孤立した村に救援物資を届けるAMDAチームのタイ救急医学会・サン会長（右）

特に、東日本大震災の被災者救援活動にはトルコから緊急救援チームの来日のみならず、日本トルコ文化交流会は2・5トンの飲料水を南三陸町に運んできてくれた。タイのパイロ医師はタイ保健省の要請で在日タイ人のお世話だけでなく、大槌町支援で訪れている。これらの活動を一言でいえば時空を超えた「相互扶助」である。人間関係の素晴らしさを表現する言葉である。

車から支援物資を運び出すメンバーら

世界の経済社会的情勢は急激に悪化している。中近東のみならず欧米でも若者の暴動が続いている。イスラエルとイランの関係も悪化の一途である。ギリシャに続いてイタリアの国債暴落の危機である。2012年には何が起きてもおかしくない。

このような時こそ世界の市民と市民の関係強化が必要である。「緊急人道支援」で信頼関係を構築し、「親善スポーツプログラム」で若い世代の尊敬に基づいた相互理解を推進する。国際社会は「宗教の理解」なしには存在しない。この相互扶助に基づいた三つの要素の組み合わせをもって世界平和へのパートナーシップを強化する。これがAMDAの提唱する「市民参加型人道支援外交」である。

2012年には日本トルコ文化交流会との協力のもとにトルコのワン市でトルコ人、クルド人そして日本の中学生による親善サッカープログラムを実施する予定である。日本とトルコの良き助け合いの歴史に加えて、東日本大震災被災者に対するトルコの官民の人道支援とトルコ東部地震被災者に対するAMDAの人道支援が可能にする親善サッカープログラムがトルコ国内の複雑な事情に少しでもお役に立つことができれば望外の喜びである。加えて、日本の中学生の人材育成プログラムとなれば更なる喜びである。

（AMDAグループ代表）